

中部教区通信

編集 日本キリスト教団中部教区
 教区通信編集委員会
 発行人 横山 良樹
 発行所 〒461-0009
 名古屋市東区久屋町8の6
 日本基督教団中部教区事務所
 電話 (052) 971-8497
 Email ckyo@quartz.ocn.ne.jp
 振替口座 00830-7-52037
 Homepage http://uccj-chubu.com



わたしには責任がない

使徒言行録二十章17節〜27節

上野教会牧師 高田 恵嗣

使徒パウロは言いました。「だれの血についても、わたしには責任がありません」(26節)、血について責任がない。血が連想させるものは傷であり、痛みであり、命に係わる事柄です。その血について責任がないと言いつつたのです。

です。「わたしは、神の御計画をすべて、ひるむことなくあなたがたに伝えたから」(27節)、一切は神の御計画のうちにある。だからこそ、私には一切の責任がない、そう言い切れたのでしよう。

んでいくのです。パウロがこの言葉を語ったのは、ミレトスという町でエフェソの教会の長老たちを呼び寄せて語った告別の言葉でした。エフェソはパウロの伝道旅行の中で最長となる三年間滞在した場所です。その長老たちを呼び寄せ、「あなたがたが皆もう二度とわたしの顔を見ることはない」(25節)と言い、これだけは伝えなければならぬと言った言葉です。パウロの言葉通り、第三回伝道旅行の終わり、エルサレムにおいて捕らえられ、ローマへと連行され、伝説では皇帝ネロによって殉教の死を遂げるのです。文字通り最後にどうしても伝えたいこととして語られた言葉が記されているのです。

りながら自分に言い聞かせていたのではないのでしょうか。そうやってすべてを神に寄り頼んでいくのです。また、寄り頼んで良いた主イエスを与えられた、それがパウロの原動力であったのだろうかと思うのです。

もし、この言葉だけを聞いたならば、誰でも穏やかな状況だとは思わないでしょうか。何かと責任問題が注目を集める現代では、なかなか聞くことのない言葉だとも思えます。なにせ「だれの血」においても責任がないと言っている時点で、責任を放棄しているように思えます。私には責任がない。私は潔白だ。あなたがたにどうこう言われる筋合いはない。正直、あまり良いイメージは湧いてきません。ただなお、驚かされるのはこの言葉を語ったのが使徒パウロだということ。

私は、この三月で三重地区にある上野教会を辞任いたします。わずか六年間の短い歩みでした。しかし、その短い歩みの中にも色濃いい交わりが与えられ感謝の日々でした。一つ一つ思い起こせば限りがありませんが、神様から多くの恵みを与えられた日々であったと思っております。しかし、半面悩むことも多かったように思います。恵みの日々は苦悩の日々と対になって与えられたのです。そして、その苦悩のほとんどが自分の至らなさから、自分の思い上がりから来るものであったように思うのです。もっと言うならば、神を忘れて、自分の力で問題を切り抜けようともがき、抱えきれなくなっていくのです。そんな時に、このパウロの語る言葉に大きく励まされ、力づけられたのでした。思い上がってはならない、この世を導いておられるのは唯一なる神なのだ、自分ではなく、神なのだ」と心に刻

「だれの血についても、わたしには責任がありません」、パウロはそう語り、同時に聴く者すべてに「血の責任はあなたがたにもない」と告げているのです。必死な思いで伝道へと歩みを進める私たち、その歩みは困難を極めるものではないのでしょうか。一つうまく行っても二つ後退するなんてことはよくある話で、徒労感にさいなまれることもしばしば、今までやってきたことは何だったのかと途方に暮れたりもします。この様な私たちにパウロは言い聞かせるように「血の責任はわたしにも、あなたがたにもない」と語るのであります。きつとそう語ったパウロ自身も語

私たちは血の責任を神へとお委ねすることができる。なぜならば、血の責任は神が負って下さったからです。私たちは胸を張って責任がないと言っているのです。それは、その責任を負って下さった方がいるから、主イエスがいてからです。主イエスのご受難を覚えるこの時、私たちは主イエスの十字架への一連の道のりを思い起こすのです。そして気付かされることがある。それは、沈黙を貫く主イエスの姿です。民衆が「十字架につける」と叫ぶ中であって、自分の命が失われるだろうその時に、主イエスは沈黙しておられるのです。私たちは知っています。沈黙とは何も考えないというような消極的なものではなく、どこか一点を見つめている時にこそ沈黙すること。人は心が騒がしい時に沈黙などを。人は心が騒がしい時に沈黙などを。人は心が騒がしい時に沈黙などを。人は心が騒がしい時に沈黙などを。

しかし、普段から教会生活をしている私たちはこのパウロの言葉を、ある意味で深く受け止めることができるのではないのでしょうか。パウロがなぜこのような言葉を語ることができたのか。それは先ほどの26節の続きを見ると分かるの

「だれの血についても、わたしには責任がありません」、パウロはそう語り、同時に聴く者すべてに「血の責任はあなたがたにもない」と告げているのです。必死な思いで伝道へと歩みを進める私たち、その歩みは困難を極めるものではないのでしょうか。一つうまく行っても二つ後退するなんてことはよくある話で、徒労感にさいなまれることもしばしば、今までやってきたことは何だったのかと途方に暮れたりもします。この様な私たちにパウロは言い聞かせるように「血の責任はわたしにも、あなたがたにもない」と語るのであります。きつとそう語ったパウロ自身も語

私たちが血の責任を神へとお委ねすることができる。なぜならば、血の責任は神が負って下さったからです。私たちは胸を張って責任がないと言っているのです。それは、その責任を負って下さった方がいるから、主イエスがいてからです。主イエスのご受難を覚えるこの時、私たちは主イエスの十字架への一連の道のりを思い起こすのです。そして気付かされることがある。それは、沈黙を貫く主イエスの姿です。民衆が「十字架につける」と叫ぶ中であって、自分の命が失われるだろうその時に、主イエスは沈黙しておられるのです。私たちは知っています。沈黙とは何も考えないというような消極的なものではなく、どこか一点を見つめている時にこそ沈黙すること。人は心が騒がしい時に沈黙などを。人は心が騒がしい時に沈黙などを。人は心が騒がしい時に沈黙などを。

私たちが血の責任を神へとお委ねすることができる。なぜならば、血の責任は神が負って下さったからです。私たちは胸を張って責任がないと言っているのです。それは、その責任を負って下さった方がいるから、主イエスがいてからです。主イエスのご受難を覚えるこの時、私たちは主イエスの十字架への一連の道のりを思い起こすのです。そして気付かされることがある。それは、沈黙を貫く主イエスの姿です。民衆が「十字架につける」と叫ぶ中であって、自分の命が失われるだろうその時に、主イエスは沈黙しておられるのです。私たちは知っています。沈黙とは何も考えないというような消極的なものではなく、どこか一点を見つめている時にこそ沈黙すること。人は心が騒がしい時に沈黙などを。人は心が騒がしい時に沈黙などを。人は心が騒がしい時に沈黙などを。

しかし、普段から教会生活をしている私たちはこのパウロの言葉を、ある意味で深く受け止めることができるのではないのでしょうか。パウロがなぜこのような言葉を語ることができたのか。それは先ほどの26節の続きを見ると分かるの

「だれの血についても、わたしには責任がありません」、パウロはそう語り、同時に聴く者すべてに「血の責任はあなたがたにもない」と告げているのです。必死な思いで伝道へと歩みを進める私たち、その歩みは困難を極めるものではないのでしょうか。一つうまく行っても二つ後退するなんてことはよくある話で、徒労感にさいなまれることもしばしば、今までやってきたことは何だったのかと途方に暮れたりもします。この様な私たちにパウロは言い聞かせるように「血の責任はわたしにも、あなたがたにもない」と語るのであります。きつとそう語ったパウロ自身も語

私たちが血の責任を神へとお委ねすることができる。なぜならば、血の責任は神が負って下さったからです。私たちは胸を張って責任がないと言っているのです。それは、その責任を負って下さった方がいるから、主イエスがいてからです。主イエスのご受難を覚えるこの時、私たちは主イエスの十字架への一連の道のりを思い起こすのです。そして気付かされることがある。それは、沈黙を貫く主イエスの姿です。民衆が「十字架につける」と叫ぶ中であって、自分の命が失われるだろうその時に、主イエスは沈黙しておられるのです。私たちは知っています。沈黙とは何も考えないというような消極的なものではなく、どこか一点を見つめている時にこそ沈黙すること。人は心が騒がしい時に沈黙などを。人は心が騒がしい時に沈黙などを。人は心が騒がしい時に沈黙などを。

私たちが血の責任を神へとお委ねすることができる。なぜならば、血の責任は神が負って下さったからです。私たちは胸を張って責任がないと言っているのです。それは、その責任を負って下さった方がいるから、主イエスがいてからです。主イエスのご受難を覚えるこの時、私たちは主イエスの十字架への一連の道のりを思い起こすのです。そして気付かされることがある。それは、沈黙を貫く主イエスの姿です。民衆が「十字架につける」と叫ぶ中であって、自分の命が失われるだろうその時に、主イエスは沈黙しておられるのです。私たちは知っています。沈黙とは何も考えないというような消極的なものではなく、どこか一点を見つめている時にこそ沈黙すること。人は心が騒がしい時に沈黙などを。人は心が騒がしい時に沈黙などを。人は心が騒がしい時に沈黙などを。

5名の正教師が誕生 按手礼を挙



2017年11月23日、金沢教会にて矢澤美佐子教師（金沢教会担任）、吉川光太郎教師（福野伝道所主任・福光教会兼務主任）、12月5日には、金城教会にて吉川進教師（大台めぐみ教会主任）、畑雅乃教師（金城教会担任）、蜂屋博寿教師（津教会主任）の按手礼式が行われました。

按手礼式は厳粛な雰囲気の中で執行されます。出席した正教師は前に進み出て、受按教師の頭の上に手を置きます。今年は会場教会の教師が按手を受けることもあり、金沢教会で129名、金城教会では128名の方が集まりました。受按教師の家族、出身教会、かつて世話になった教師も祝いにかけて、式後の茶話会では味わい深い祝辞が続き和やかな雰囲気でした。副議長 田口博之



福野伝道所 福光教会 吉川光太郎
他の先生方が按手を受ける場面を、今まで二度目撃していた。大勢の教師が前方に群がり、手を置く様子を見ておののきつつ、あの中にいる人（受按者）はどのような気持ちなのだろうと想像していた。そして此度、自らが按手を受ける身となった時、ようやくそれが分かった。当日は悪い風邪をひき、意識がもうろうとしていた中であつたが、はつきり分かった。「重い」。手を置くと言うよりも、押し付けられている感覚。崩れてしまふかと思つたほどである。だが、あれこそが主より受けし召しの重さ、そして手を置く教師と、共にある信徒の方々の祈りの重さだと感じた。

この私を小さく、低くしてくださるあの重みを忘れることなく、お仕えしてまいりたい。あと、熱気がすごかったです。



大台めぐみ教会 吉川進
横山良樹先生始め正教師の方々の按手のとき、頭に肩にドシンと乗っかる圧力は、想像を超えていました。正教師の務めを全うするために聖霊を受けよとの声を聴きながら、使徒の伝統の重さか、と主の召しを受け止めました。少ない教会員と出席者の皆さんが、社会人からの遅い献身の私の牧会を、祈つて懸命に支えてくださいました。最初の聖餐式で彼らから大きな喜びの共感を感じました。ここまでの道のりは全く主の恵みによるもの、母教会、三重地区、中部教区の全ての教会の祈りに支えられたものです。一教会の教師としての務めのみならず、地区、教区での宣教の働きにも広く関わりたく、思いを新たにしています。どうぞよろしくお願いいたします。



金沢教会 矢澤美佐子
ただ神様の導きでここまで来ました。補教師となつてから大きな病気で生死を彷徨い、もう伝道者として神様にお応えしていくことはできないと思つていました。それから約十年、神様の憐れみ深いご計画と多くの人の祈りに支えられ按手へと導かれました。全く私の力ではありません。それだけに、聖礼典執行は資格が与えられた事柄ではなく、神様の権能にお仕えすることが赦された職務として、ますます神様の御前にへりくだり、畏れをもってお仕えして参りたいと思ひます。ここまで導いて下さった神様と金沢教会をはじめ多くの方々に心から感謝しております。これからも教会の命に関わる働きに、誠実にお仕えして参りたいと思ひます。

ただ神様の導きでここまで来ました。補教師となつてから大きな病気で生死を彷徨い、もう伝道者として神様にお応えしていくことはできないと思つていました。それから約十年、神様の憐れみ深いご計画と多くの人の祈りに支えられ按手へと導かれました。全く私の力ではありません。それだけに、聖礼典執行は資格が与えられた事柄ではなく、神様の権能にお仕えすることが赦された職務として、ますます神様の御前にへりくだり、畏れをもってお仕えして参りたいと思ひます。ここまで導いて下さった神様と金沢教会をはじめ多くの方々に心から感謝しております。これからも教会の命に関わる働きに、誠実にお仕えして参りたいと思ひます。



津教会 蜂屋博寿
按手礼式の当日、最後の常置委員会の面接を緊張しながら待つている時に常置委員会の方々が歌う讚美歌が聞こえてきて、心が落ち着きました。「低きものを 高めたもうみめぐみ。」

按手の際、先輩の牧師の手が次々とひざまずく私の頭に置かれた時もこの讚美歌が頭にありました。按手を授けられる、主イエスによって託された聖礼典を執行することが許される。それはどこまでも自分を低くすること、神が共にいて小さな土の器の己を導いて下さる。ただそこにのみ信頼をおいて教会に仕える中で、神が御業を行って下さる！その思いを、按手の手の重みは私に示してくれました。今後も神の憐れみにひたすら信頼をして、愛する津教会にお仕えして参ります。どうぞ教区の皆様、主にあるお交わりをよろしくお願い致します。



金城教会 畑雅乃
正教師への献身の志を与えられてから、主と多くの方々の祈りによって励まされ支えられてきました。その日々の中で、主の御助けによって主にある兄弟姉妹と共に教会に仕えていくことの幸いを知りました。按手礼式は、すべての民をお救いになろうとする主の思いが、時を経て現された出来事であつたと思ひます。按手礼式で置かれた沢山の牧者の祈りと手の重みを通して、「私があなを召し出した、さあ共に行こう」と主の力強い派遣の御言葉を聴きました。今も生きて働いておられる主の力添えによって、御言葉と聖礼典を通して教会の方々と共に神の国に招かれている幸いを、広く伝えて行くよう努めていきたいです。

正教師への献身の志を与えられてから、主と多くの方々の祈りによって励まされ支えられてきました。その日々の中で、主の御助けによって主にある兄弟姉妹と共に教会に仕えていくことの幸いを知りました。按手礼式は、すべての民をお救いになろうとする主の思いが、時を経て現された出来事であつたと思ひます。按手礼式で置かれた沢山の牧者の祈りと手の重みを通して、「私があなを召し出した、さあ共に行こう」と主の力強い派遣の御言葉を聴きました。今も生きて働いておられる主の力添えによって、御言葉と聖礼典を通して教会の方々と共に神の国に招かれている幸いを、広く伝えて行くよう努めていきたいです。

「まきば」20周年の感謝と新体制

2017年12月6日（水）、愛知老人コミュニティーセンターシルバーホーム「まきば」（以下「まきば」と略す）は、開設20周年記念感謝クリスマス礼拝の時を持ちました。教団議長を始め、近隣施設からお祝いに駆けつけていただき、入居者様や職員と共に愛餐の時を持っていただくことを心より感謝申し上げます。また、中部教区の諸教会・伝道所の方々には、日頃から「まきば」を覚えてお祈りいただき重ねて感謝申し上げます。

この20周年という節目は、「まきば」にとって大きな変化の時を迎えています。まず変わったのは、宗教主事という働きが与えられたことでもあります。宗教主事が与えられたことにより、入院されている入居者様への聖餐式の執行や、各教会から、何よりも大牧者であるイエス・キリストの委託を受けて近隣施設にて洗礼式を執行するなど、これまでなかった教団のセンターとして、また教区内にある施設としての働きが与えられています。

また、新たな取り組みとして、毎月第1金曜日に行なわれている「礼拝」や、それ以外の金曜日に行なわれている「聖書の集い」の後に、『中部教区総会資料別冊』を用いて、毎回2箇所の諸教会・伝道所の報告に耳を傾け、教区との繋がりを大切にしております。

そして、一番の変化は、長年「まきば」の顔となり、経営を安定させ、全国1位の老人ホームとしての評価を獲得した、



鈴木卓也施設長が辞任し、小田部正一宗教主事がその職を兼務することになったこと、また、同じタイミングで運営委員長（元理事長）の役を担ってくださっていた篠田潔隠退教師が辞任し、下村徹嗣隠退教師へと交代したことであります。愛知老人コミュニティーセンターとしても、シルバーホーム「まきば」にとっても大きな変化ではありましたが、スムーズな引き継ぎがなされました。鈴木卓也前施設長と篠田潔前運営委員長のこれまでの働きに心から感謝いたします。

近況報告としては、逝去されたお連れ合い様の生前の祈りや、ご家族の祈り、そして、金城教会の皆様への祈りに支えられ、クリスマスを入居者様が受洗をされました。さらに、これまで「まきば」での働きを通し、またボランティアに来てくださる近隣教会員との交わりを通して信仰へと導かれ、南山教会のクリスマス礼拝に於いて職員1名が受洗するなど、これまで「まきば」での生活や働き場として過ごされ、ふさわしい時が与えられたことを喜ばしく思っています。

これからも「まきば」で過ごす全ての方が、神様を証しするため、それぞれの賜物に応じたふさわしい働きが与えられることを祈り願っています。今後とも「まきば」を覚えてお祈り頂ければ幸いです。

宗教主事 小田部正一

日韓教会青少年交流ツアー

教会の青少年が、韓国と日本を相互に訪問するプログラムは、今年で5年目となり、今回は3度目の韓国訪問でした。毎年大切にしているフィールドワークは、主題を「セウォル号沈没事故の学び」と定めました。韓国と日本からの参加者は、セウォル号が出港した安山市（アンサン）に出かけ、合同慰霊所を訪れ、ご遺族とも面会しました。また、現地で真相究明のために活動している牧師先生からお話を伺いました。参加者の年代は中学生から高校生が中心で、事故で犠牲になった304人（行方不明者含む）の内、250人は修学旅行中の檀園高校2年生だったこともあり、より実感を持って事故について学ぶ時となりました。詳しくは、近々発行される報告書をお読みくだされば幸いです。

交流も会を重ねるごとに、韓国と日本の教会に属する若者たちの距離が縮まり、再会を心待ちにしつつ次回の企画を始めています。2018年度、名古屋に3度、韓国基督教長老会韓信教会の青少年をお迎えし、交流プログラムを行なう予定です。7月下旬から8月初めの時期です。ぜひ今からご予約ください。

実行委員長 草地大作

第32回中部教区「障がい者と教会」交流集会

2017年10月9日（月・休）御器所教会において、第32回中部教区「障がい者と教会」交流集会が開催されました。久しぶりの昼食を挟んでの集会でした。委員会は、障がい者が教会形成を担う主体として歩むことや、教会生活のハードやソフトの面での壁をなくすこと、障がい者に対する社会の壁に対処していくことを目的に活動してきました。今回の交流集会では、依存症を取り上げ、講師にNPO法人「名古屋ダルク」の柴真也さんをはじめ他のスタッフ、そしてメンバーと総勢14名を迎えての集会となり、13教会・伝道所、1団体、計42名の参加者が集まりました。午前中は柴さんやスタッフの方々の取り組みを聴き、午後はその取り組みの中の「分かち合い（ミーティング）」を実際に体験してみる機会を持ちました。慣れていない参加者を「名古屋ダルク」のメンバーが助けてくださり、各グループとも、良い時間を持つことができました。詳しくは報告書を作成する予定ですので、またご覧ください。

委員長 柳本秀良

創立六十年を記念して

二〇一七年は、鈴鹿教会が創立されて六十周年を迎えた節目の年です。主の導きの中で、創立以来多くの牧師、兄弟姉妹に支えられ今日に至っています。私たちはどんな時でも「主の御心に叶うように」と、祈りつつ歩んで来ましたが、またこの先も、主の御言葉を糧に、主イエスに愛される歩みをしたと願っています。

そんな日々、六月に加藤幹夫牧師（三重地区長）を迎えて六十周年記念会、九月は中国宣教師として活躍されている新川誠宣教師を迎えての特別伝道集会を持ちました。そして十一月には、秋の集いを十数年ぶりに開催しました。

秋の集いのテーマはコリント一、十二章の『賜物』です。老若男女各々が主より頂いた賜物を持っています。教勢が伸び悩む中、各教会員の賜物を生かす育てることが大切です。自分の賜物を充分知っている方もいれば、自分では気が付かない賜物もあります。それを互いに話し合いました。集った場所は教会を離れ、錫杖湖（しよくさうこ）にある錫杖湖

水荘の一室です。鈴鹿教会からは十七名（子供一名）、紀伊長島教会からは八名（子供三名）が参加しました。紀伊山口牧師に賛美伝道をお願いした際、出来れば教会員の方々も参加して下さいと願ったからです。

感謝と喜びに賛美を捧げ、石田聖実牧師、山口英希牧師のメッセージを心に刻み、時間が足りない程一人一人が語り合った恵まれた集いでした。主イエスの愛に包まれた、集いだったと感謝しています。最後になりますが、教区伝道活動援助費での支援、感謝致します。長老 桑原学



新川誠宣教師を招いての特別伝道会

「伝道活動援助費」は、前年度の年間経常収入600万円未満の教会・伝道所の申請に基づき、伝道集会など個々の伝道活動に関する援助をしています。2017年度の予算は90万円、12教会・1伝道所から申請書が届きました。今回はすでに伝道集会を実施された三重地区の鈴鹿教会と富山地区呉西伝道圏の出町教会より、その様子を報告していただきます。

なお、中部教区の伝道活動援助費は、日本基督教団の伝道資金制度に支えられており、教区の申請に基づいて教団から配分された伝道方策交付金を「伝道活動援助費」に充てています。

副議長 田口博之

活かされています

伝道活動援助費

教会の少ない地域に クリスマスの喜びを

出町教会では、昨年のクリスマスに教区の伝道活動援助を受けてクリスマス案内チラシを広範囲に配布することができました。教区の皆様に御礼申し上げますと共に、主の御業が富山県の教会が少ない地域においてもなされていることを感謝をもってご報告させていただきます。

出町教会は富山県西部・砺波市に位置しています。人口は約五万人で、出町教会の他、他教派の教会・集会所が二つあります。砺波市より北に行けば大きな市町村が並び、教会も他教派を含めて多数あります。ところが、南には美しい田園風景が広がり世界遺産・五箇山で知られる南砺市があり、山で知られる南砺市が、教団の福野伝道所と福光教会があるのみで他教派の教会がまったくない地域が続きます。

今回、約三万部のクリスマスチラシを印刷し、新聞折り込みを通して砺波市から南砺市に向けて広範囲の地域に配布いたしました。単独ではなかなかできない大きな働きですが、教区の皆様のお祈りとご支援を受けて今回行えましてご報告させていただきます。

牧師 前田真孝



「中部教区互助制度を支える自主献金」 にご協力くださり、感謝です!!

昨年五月に行われた第六十七回中部教区総会で議案「中部教区互助制度を支える自主献金」が修正可決されました。常置委員会が議場に提出した原案は「教師の生活を支える自主献金」でした。中部教区の互助制度はもともと教区総会における信徒議員の「教区諸教会・伝道所は伝道の最前線にある教師を支えなければならぬ」という趣旨の発言により開始された経緯があります。その中心は謝儀援助で、謝儀援助（直接）と伝道費援助（間接）のかたちで支出されます。その他にも退職一時金積立援助、赴任費援助、伝道活動援助、聖礼典執行援助があります。これらは助合伝道（中部教区互助制度）として総括され従来は、教会からの負担金（助合伝道献金）、および教師互助会費の半額支出によって運営されてきました。

支えられない事態となりました。そこで第一種教会のみの助合伝道献金の要請を、二〇一四年より、激増緩和措置をとった上で第二種教会・伝道所にも要請し、教区内一〇四の教会・伝道所がすべて参加して互助制度を維持しようとしてきました。日本社会の少子高齢化を教会は先取りしており、一昨年のデータによりまずと教団信徒の年代別構成比集計は、男女合計の七〇歳以上構成比が全体の四〇パーセント、六〇歳台が二十三パーセント、両者あわせて六十三パーセントと報告されています（中部教区は六十二パーセントでした）。今後の活動の厳しさが伺える数字です。

こうした状況のなか謝儀援助申請が増加する傾向にあり、小手先の調整で対処できる段階をこえたと判断した結果、信徒の方々に自主献金をお願いする方たちで、教区互助制度を維持する議案を提出したのでした。「中部教区互助制度を支える自主献金」は九月三日（振起日）に実施されました。献金目標額は百万円でした。この自主献金に、この度、七十九口三〇七万円九百二十五円（二月三十一日現在）が寄せられました。各教会・伝道所の役員会・長老会・幹事会が、危機感を共有してくださり、自主献金の趣旨を理解して、信徒の方々に呼びかけてくださったことを感謝いたします。わたくしが嬉しく存じますのは、口数のかたちにまとめましたので隠れていますが、七十九教会・伝道所等からお献げいただいた献金の、その背後に、信徒の方々お一人お一人の、中部教区の伝道を支えようとする熱い思いが感じられることです。幾度も追加で献金をささげられる教会や、合同礼拝の献金をささげて下さった地区も、また葬儀の感謝献金をささげて下さった方もおられます。本当に有り難いことです。

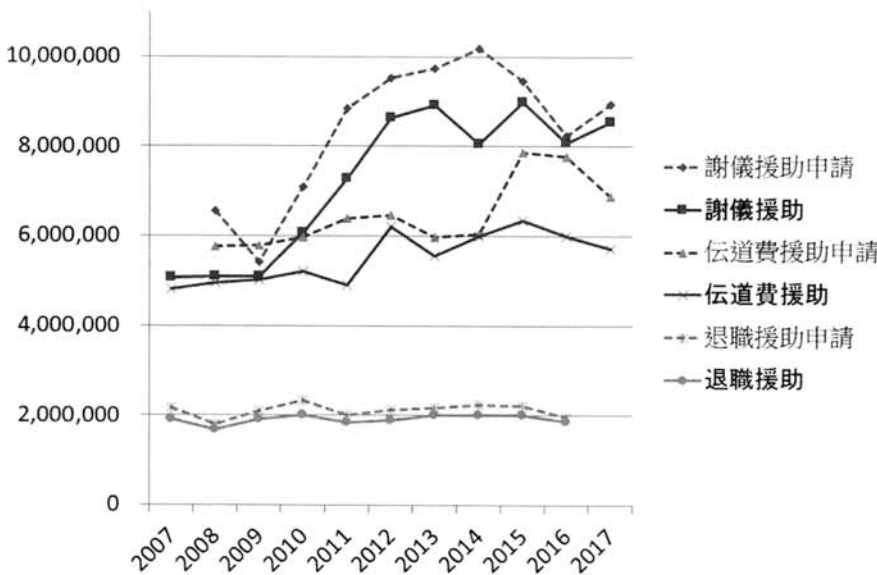
この自主献金によって再び信徒の方々が、教師を支えることを身近に捉え直す契機となったという声も頂いています。しかし、何よりも謝儀援助と伝道費援助の新規申請に比べ得る可能性が生まれたことこそ、今後の中部教区の伝道の展望をひらくものとして感謝にたえません。今年度ささげられました献金を加えて、二月に行われる常置委員会、諸教会・伝道所からの

謝儀援助、伝道費援助の申請にどのような応えるかを決定いたします。また運用につきましても振り返りを行い、次年度九月の自主献金実施に備えます。

今後とも趣旨をご理解いただきまして、ご協力をよろしくお願いいたします。本当に有難うございました。

教区議長 横山良樹

援助申請と援助額<支出>の推移 2007-2017



※2010年より、謝儀援助、伝道費援助申請が増加しましたが、申請に十分対応できない状況が続いています。
 ※謝儀援助については、新規申請を希望しながらも、それができない状況になっていました。

95&97箇条の提題を学ぶ 教師研修会

昨年十一月十三日(月)〜十四日(火)に、織田信長の入城四五〇周年の空気が漂う岐阜、長良川温泉「すぎ山」にて、参加三十七名により、今年度の教区教師研修会が行われた。我々にとっては宗教改革五〇〇周年に当たり、その主題に沿った開会礼拝に導かれて、改革者マルティン・ルターについてよく知られている『九十五箇条の提題』と、その二か月近く前に公にされた『九十七箇条の提題』からの学びが順次提供された。

恒例の、教区内の交わりを温める教区アワーも豊かに行われて、二日目には、『スコラ神学を反駁する討論』Ⅱ『九十七箇条の提題』について紹介された。これは、ルターの奴隸意志論を展開する文書であり、当時の一般的な解釈に対する極めて攻撃的な文章の連続したものである。そもそもルターとジャン・カルヴァンは急進的なアウトグステイヌス主義者であり、ルターはその二大原理のうち原罪論について強調した。そうしたことはカトリック教会の中世以前の伝統を覆すものだった。彼は専ら、人は神の前で一人立たされてどうか、コラーム・デオ、という点を問い続けたのである。



さて今回、ルーテル教会とローマ・カトリック教会が企てている和解と一致の試みについても紹介していただいた。両者で共に改革五〇〇周年を記念する集会、礼拝も計画している、という。また、なるほど興味深かったのは、カトリック教会は今も形式的には贖宥状を持っているが、儀式的には持っていないということ、カトリック教会からのルターの破門も、形式上は今も生きているが、カトリックの公式表現でも、彼は「信仰の父」と呼ばれているということだった。



ユークルーバー 来たれ! You中部er

日時 3月26日(月)〜28日(水)
場所 大杉みどりの里(石川県小松市)
主題 「You 中部〜イエス様、信じてみた」
申込 2月26日まで FAX 052-936-9127

中部教区主催で行う中高生を対象にした集会は初めての試みであり、講師の大嶋重徳先生を初め、若い教師と信徒スタッフ一同祈りつつ熱く燃えて準備をしています。

交通費は全額補助し、愛知方面からは大型バスを出す予定です。ぜひ、このバイブルキャンプのためにお祈りくださり、中高生をお送りください。

お問い合わせはバイブルキャンプ実行委員長の木下牧師(金城教会)までお願い致します。 スタッフ 松島保真

教師部委員 滝瀬 一

るばの声

礼拝では主の祈りを唱えます。それは、礼拝において呼吸する空気のように、当たり前の祈りだからです。この祈りに、「御国が来ますように」と出てきます。御国とは、神は王であって、その「王の支配」による国が来ることを意味します。つまり「神の支配」です。神の支配された国と言え、私たちが思い描く桃源郷のような所をイメージします。しかし、罪人である私たちは、必ずしも神を求めているとは限りません。その多くは神の支配を求めているのではなく、サタンとの支配や自己中心的な思いに支配された場所を求めているのです。その人々の思い描く桃源郷には、支配者としての神はでてきません。実際に人間が求めているのは、神の支配ではなく自分の支配を求めているからです。自分の思い通りを求めているのは、実は自分の国を求めているのです。自分の国を求めているかぎりそこに救いはありません。ですから救いの存在する「御国が来ますように」と祈るのです。

鳥羽教会 田名尚文

石川地区

石川地区会長 野崎卓道



石川地区には、能登から輪島教会、七尾教会、羽咋教会、富来伝道所、かほく市の恵泉教会、内灘教会、金沢市の若草教会、金沢南部教会、桜木教会、金沢教会、金沢元町教会、金沢長町教会、白銀教会、そして小松教会の13教会、1伝道所があります。小松教会は一昨年11月に献堂式を行いました。地区では毎年6月に交換講壇が行われ、11月には地区信徒大会が持たれます。北陸学院では、創立130周年記念事業として扇が丘幼稚園の園舎と小学校の校舎の建て替え、中高の栄光館及び新体育館建築、大学の建物全体の耐震化とリニューアル工事が行われました。北陸学院を初め、地区内のキリスト教主義幼稚園や保育園等の諸施設が教会と協力して伝道に励んでいます。桜木教会の関係幼稚園であるさくらぎ幼稚園は2018年3月に新園舎完成を予定しています。教師の異動は昨年4月に金沢元町教会に大澤正芳教師・大澤みずき教師が招聘されました。また11月23日に金沢教会で矢澤美佐子教師の按手礼式が執り行われました。輪島教会の滝瀬一教師は今年度で辞任し、新しい教師を迎える予定です。お祈りにお覚えて

愛知西地区

愛知西地区会長 吉澤 永



愛知西地区は、31教会、4伝道所の大所帯です。シルバーホーム「まきば」や名古屋キリスト教社会館、名古屋学院大学、名古屋高等学校、名古屋中学校、金城学院大学、金城学院高等学校、金城学院中学校が地区内にあります。「まきば」や、学校との交流を深めながら、この地で委ねられた宣教の業に励んでいます。地区内には、12の委員会(婦人会連合、壮年会連合を含む)と4つの特設委員会があり、活発な活動が行われています。年に一度行われる地区総会では、90名以上の正議員と70名弱の准議員とで構成され、正議員、准議員合わせて90名前後の出席者があり、さながら「教区」のような規模があります。愛知西地区においても、教勢低下によって、どの教会も厳しい状況におかれています。今年度より地区内互助献金を始め、諸教会・伝道所の緊急の必要に備えるようにしています。財政的な援助だけではなく、問安や祈りによって連携を深めていきたいと思っています。覚えてお祈り下さい。

中 東 部 北 南 部 教 西 区

集会が地区内で一位、二位の参加人数となる。大抵は婦人研修会が一位の座を占めているのだが、これも地区の課題の一つとなっている。最後に、ささやかではあるが地区にも助け合い会計があつて、協力献金が寄せられ教区で届かないところを地区が支え合う形をとっている、また災害時に何らかの行動が取れる体制を築いて行こうと準備を進めている。二〇一八年度開催予定の教区役員研修会(於蒲郡温泉)に向けて実行委員会が動いているところです。蒲郡で皆さんをお待ちしております

が予定されており、この二
れ、二月には「教会音楽会」
全体研修会が一月に実施さ
る。各教会の伝統も多様で、
まさしく合同教会としての
形態がある。今年度の地区
の主な活動は、隔年開催の
全体研修会が一月に実施さ
る。二〇一八年度開催予定の
教区役員研修会(於蒲郡温泉)
に向けて実行委員会が動いて
いるところです。蒲郡で皆さ
んをお待ちしております

愛知東地区



愛知東地区会長 池田春善
地区の範囲は愛知県東部の

の「三河」、「知多」からなる人口大凡三百万。知多半島には中部国際空港もある。地区内に教区内最古の歴史を持つ一八七五年創立の西尾教会から一九八五年創立の知立伝道所まで十一教会・三伝道所が点在する。内訳は十九世紀に誕生した四教会、所謂「戦前」誕生六教会、所謂「戦後」誕生五教会、三伝道所がある。教師は三十年一筋一教会に仕える教師、今年度着任の教師と多彩、教師異動は漸く落ち着きつつある。各教会の伝統も多様で、まさしく合同教会としての形態がある。今年度の地区の主な活動は、隔年開催の全体研修会が一月に実施され、二月には「教会音楽会」が予定されており、この二

第28回中部教区

部落解放セミナー

二〇一七年二月四日(土)午前十時から午後三時まで「部落差別の現実」を主題として、三重地区の担当で表記のセミナーが伊賀市で行われた。会話は第一部で礼拝があり、上野教会を会場に中部教区部落差別問題委員会委員の南吉衛牧師(桑名教会)がマタイ福音書十五章21〜28節で説教を下された。第二部では、いがまち人権センターに移動し(公財)反差別・人権研究所みえ(ヒューリアみえ)の松村元樹さんに講演と現地研修をしていただいた。

講演では、部落解放運動の間とともに差別をなくしていくこと、いがまち人権センターが設立されたこと、子どもたちが気軽にセンターに立ち寄り、仲間と共に活動しながら課題解決を図り、仲間づくりが進める取り組みなど、丁寧に話してくださった。

このセミナーは、中部教区の地区を持ち回りで行われ、今年度は愛知西地区が担当し、二〇一八年二月三日(土)津島日光川燈台伝道所で行われました。

委員長 平井克也

教区常置委員会は、主に名古屋中央教会にて行っていますが、年に一度、中部教区内の諸教会を会場に行なっています。昨年十月三十日(月)・三二日(火)に行われた常置委員会は、愛知東地区にある岡崎教会にて行われました。意外なことに愛知東地区での常置委員会は、どなたの記憶にもないとのことでした。会場となった岡崎教会は二〇一六年五月に献堂したばかりで、木のぬくもりのある明るく素敵な教会堂でした。

東地区の牧師たちによって礼拝がさげられ、他の主日は豊橋教会で礼拝を守っています。また求道者も二名与えられており、これからも地域に根ざした伝道をしていきたいという教会員の方々の熱い思いが感じられました。

常置委員会終了後、岡崎教会から車で約一時間のところにある田原吉胡伝道所を問安しました。田原吉胡伝道所は、愛知県南部の渥美半島のちようど真ん中に位置します。小高い場所にあるので、当日は天気もよく三河湾がきれいに見えました。周りには民家が立ち並び、壁面に十字架を大きく掲げた教会がありました。現在は無牧ですが、代務をされている豊橋教会の前田和之牧師をはじめ、教会員の方々があたたかく迎えてくださり、伝道所の様子をお聞きしました。この伝道所は約四十年の歴史を持ち、現在は第一と第三主日に前田牧師や愛知



なかなかなりませんが、このような機会に各地に建てられた教会を実際に訪ね、その地域の教会員の方々と顔と顔を合わせ、直接お話しを伺うことにより、主なる神が生きて働いておられる恵みを肌で感じ、伝道に励む諸教会に力を与えられます。

教区書記 松島保真

【教区二役より】

常置委員会の主な決定事項

- 一、七月以降の主なもの
- 一、二〇一七年度秋季教師検定試験受験合格者面接
- 一、二〇一八年春季教師検定試験受験志願者面接
- 一、按手礼式執行
- 一、主任担任教師辞任承認申請一件
- 一、代務者辞任承認申請二件
- 一、兼務主任担任教師招聘承認申請一件
- 一、教務教師辞任申請一件
- 一、就任式四件
- 一、教区事務所事務員採用
- 一、松阪教会教会規則変更
- 一、名古屋桜山教会教会規則制定
- 一、鳴海教会基本財産(土地)取得申請
- 一、福井神明教会基本財産(境内建物)取得申請
- 一、二〇一七年度退職一時金積立援助、二八教会・伝道所二十七名に対して二〇五万円
- 一、二〇一八年度伝道資金を教団に申請
- 一、二〇一八年度謝儀援助基準を改定
- 一、二〇一七年度伝道活動援助費、十三教会・伝道所に七五三、九九二円
- 一、二〇一七年度教区クリスマス

ス献金目標額六十万円

- 一、二〇一七年度宗教教誨師活動支援献金目標額三十万円
- 一、二〇一八年度負担金算出案および負担金算定に関する謝儀・給与の控除額
- 一、二〇一七年度助合関係費十八万円
- 一、「教職一時融資金規約」変更 貸出金への利息を年一%から0.5%に変更する

【教区だより】

◇お悔やみ

*石田聖実教師(鈴鹿教会)ご母堂逝去

◇お見舞い

*内田伊三男教師(桔梗が丘伝道所)お連れ合い

*佐々木千沙子教師(武生教会)お連れ合い

*寒河江健教師(豊田教会)ご子息

*亀井拓也教師(如鷲教会)喜一君(十月十日誕生)

ご快復をお祈りします。

◇誕生

*亀井拓也教師(如鷲教会)喜一君(十月十日誕生)

【教区事務所より】

◇教区への提出書類

教区への提出書類を三月初めに送付いたします。提出期日をお守りの上、お早めの提出をお願いいたします。

【いぬさか】

第68回中部教区定期総会

日時	5月22日(火) 13時~21時 5月23日(水) 8時半~13時半
会場	金沢教会 石川県金沢市柿木島5-2 TEL 076-221-5396 金沢駅よりバス 香林坊下車3分
交通費	教区が計算して1往復分支給
宿泊	各教会・伝道所で手配のこと

二〇一七年十一月より中部教区事務所の事務に従事しております。杉浦裕子(名古屋桜山教会員)です。お話を頂いたとき、たいへん責任が重いお仕事ですので、はたして私に務まるのかと躊躇しておりました。それでもそこに導きを感じたこと、何より主にお仕えするお手伝いをさせていただけるとのことになりました。ということ、感謝して務めさせていただきます。非力ではありますがよろしくお願ひいたします。また、事務所が木曜日も開くことになりました。それもあわせて、お覚えください。

【前号の訂正】

四面有岡史季先生の末尾の一行が抜けておりました。お詫びして訂正します。左記を追加してください。

「をよろしくお願ひ致します。」